

パプアニューギニア・タリ市と 姉妹都市締結 農業分野で相互協力



7月9日から坂東市代表団がパプアニューギニア・タリ市を訪問し、現地の農場などの視察を行うとともに、10日、タリ市との姉妹都市宣言に調印をしました。

現地で行われた姉妹都市調印式典には、タリ市代表であるマラペ金融大臣のほか、トムスコール農業大臣代理、アラウイ・タリ市長、ウンディアル・タガリ市長、ウンディアル国会議員などの行政関係者や住民の代表など約20人が出席されたほか、約1万人以上の市民が集まり大歓迎を受けました。また、現地の新聞にも大きく取り上げられるなど、タリ市民からの大きな期待を感じました。日本国内の自治体がパプアニューギニアの都市と姉妹都市を締結するのは、坂東市が初めてになります。

パプアニューギニアとは、平成22年に中古消防自動車や救急車を寄贈、今年1月にはドウサバ・パプアニューギニア駐日大使が、6月にはマラペ金融大臣が坂東市に農業視察に訪れるなど、交流が続けてきました。そして、パプア

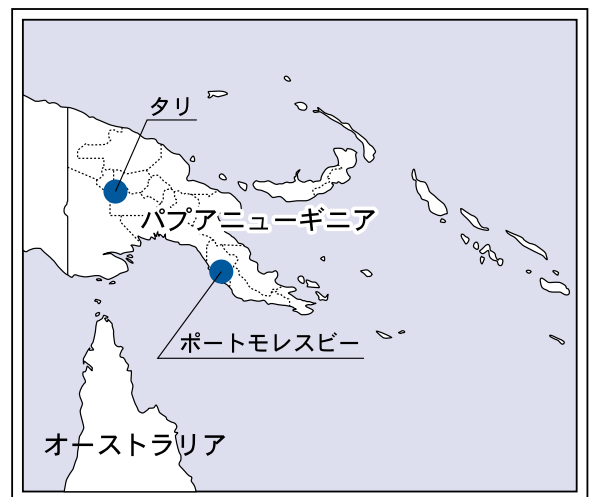
ニューギニアのオニール首相が来日した際、吉原市長が面会し、タリ市との姉妹都市締結の提案を受けました。今後は、タリ市と友好や親善のきずなを深め、農業、教育、文化、社会、経済の各分野で交流を進めていきます。まずは、農産物を飛躍していきたいというタリ市の願いに対し、農業技術の提供を行います。また、タリ市から農業研修生の受け入れなどを進めていきます。



▲タリ市の農業について視察を行いました

みなさん覚えていますか？

37年前の昭和52年7月に、パプアニューギニアから一人の青年が木村さん(杏掛)宅に農機具の視察に訪れていたことが、広報さしまに掲載されています。



タリ市はパプアニューギニアの首都ポートモレスビーから北西約800kmに位置し、標高約1,500～2,000mで周りが山に囲まれた盆地です。赤道付近にもかかわらず、気温は約10～22度と過ごしやすく、人口は約5万人で過半数のかたが農業に従事しています。